

更新日 2026年1月29日

## 「首都圏土壤医の会」の案内情報

---

### 1. 会の名称

首都圏土壤医の会

---

### 2. 設立年月日

2017年4月1日

---

### 3. 会長

高山晃 (たかやまあきら)

---

### 4. 会長のプロフィール

農協全国組織に勤務後、1998年に就農。花き栽培農家。2016年5月に土壤医の資格を取得。

---

### 5. 事務局

- (1) 担当者：井田 憲治（事務局長）
  - (2) 住所：〒375-0015 群馬県藤岡市中栗須109番地5
  - (3) 連絡先：  
Mail : [info@首都圏土壤医の会.jp](mailto:info@首都圏土壤医の会.jp)  
電話番号 : 090-8303-7781
  - (4) ホームページ URL : [首都圏土壤医の会](#)
- 

### 6. 会員数

正会員：115名 準会員：38名 (1月12日現在)

---

### 7. 会の特色

農業を含め、土づくりの必要なあらゆる現場を対象として活動をしています。また、全国のどこに お住まいの方でも会員になれます。（外国にお住まいの会員もおられます。）

#### 規約での本会の目的

第3条本会は地域土壤医の会として土づくりに関する課題解決力を高めることによって地域の農業・農村、都市農業、市民農園、福祉農園、家庭菜園、都市公園、自然公園、ガーデン等土づくりを必要とするあらゆる現場の活性化に貢

献することを目的とする。 目的を達成するためには、土づくりに関するアドバイスや指導力の一層の強化を図る必要があり、具体的には ①会員相互の研鑽と交流を深める ②会員の情報ネットワーク等を通じ土づくりに関する課題解決力を高めることを実践する。

---

## 8. 2025 年度 活動計画

別添 2025 年度事業計画のとおり

---

## 9. 入会のお誘い

本会は、特定の専門分野のスペシャリストを含め、多様なご職業の方が参加されております。皆様 もご参加いただき、交流を深めていきましょう。現地研修会は首都圏で行うこととなります。ZOOM を利用した活動を行っております。遠隔地の方もご参加大歓迎です。 本会は、本会活動のために、活動費 2000 円を頂いております。会費は、IT 関係、外部講師謝礼などに使われています。

入会案内ページ：[入会案内 | 首都圏土壤医の会](#)

# 第3号議案

## 首都圏土壤医の会 2025年度事業計画（案）

自 2025年4月 1日  
至 2026年3月31日

### 1. 首都圏土壤医の会をめぐる現状と活動方針

#### （1）首都圏土壤医の会を巡る現状

近年、AI技術の進化は目覚ましく、企業では業務の自動化やデータ分析、家庭ではスマート家電やパーソナルアシスタントとして活用される機会が増えています。しかし、その活用方法はまだ試行錯誤の段階にあり、最適な使い方を模索しているケースが多いのが現状です。

農業分野においても、AIの活用が進められており、私たち土壤医が活動するうえで、その動向を十分に把握しておくことが重要です。AIの導入によって、土壤分析の精度向上や環境管理の効率化が期待されるため、最新技術の進展に注目する必要があります。

首都圏土壤医の会では、昨年度、会員数が大幅に増加し、2023年度末の98名から2024年度末には137名へと拡大しました。会員の広域化（参加都道府県数28および海外1）に加え、多様な職種や経験を持つ新たな会員が加わったことで、活動の幅が一層広がる可能性が高まっています。

事業に参加する理事や相談役の数も少しずつ増加していますが、ボランティアで行っており、拡大が期待される事業への対応が難しくなっている現状があります。そのため、事業運営へのAIの活用は一つの選択肢となり得るでしょうが、NPO法人化などの新たな組織体制の構築も、持続可能な運営のために検討すべき時期に来ているのかもしれません。

#### （2）今年度の活動方針

現在の事業実施体制では、例年通りの研修会、講習会の円滑な事業運営ができない状況になりつつあります。このため、今年度は広く会員の皆様に事業運営への参加を求めていきます。

昨年度は、Zoomを活用した研修会を9回実施し、昨年に引き続き現地研修会も開催することができ、一定の成果を挙げることができました。これらの活

動を今後積極的に広報することで、本会および土壤医の認知度を向上させていきます。

近年、会員数の増加に伴い、会の活動の可能性も広がっています。そのポテンシャルを十分に活かした活動を支えるためには、持続可能な体制の構築が必要です。将来を見据え、組織体制の整備を含めた首都圏土壤医の会の事業運営のあり方を検討します。

## 2. 意思決定のシステム担当

### (1) 定例理事会

昨年に引き続き、毎月実施している定期的な理事会は継続します。また、事務局の中でコミュニケーションツールを最大限活用し、理事会の効率化を図ります。

### (2) 会員との意見交換

総会やZOOM研修などのイベントに合わせて、会員から意見を聞く場を設けていきます。

## 3. 業務遂行体制担当

### (1) 特定の業務についての相談役の設置

本会の事業運営は、それぞれ本業を持つ理事や相談役を中心となって行っています。しかし、事業の認知度が向上し、会員数が100名を超える規模に達したことで、現状の理事や相談役への負担がさらに大きくなっています。

この状況を踏まえ、会員の得意分野を把握し、業務範囲を限定した相談役として事業運営への参加を促すことで、より円滑な運営を目指していきます。

また、各種検討事項について個別のチームを作り、会員が気軽に運営に参加できるような体制づくりを検討していきます。

### (2) 理事会の業務を事業単位に分割

理事会の業務を洗い出し、分類を行ったうえで

今年度も理事会の業務を事業単位に分割し、それぞれの業務の担当者を決め、機動的な業務運営を行います。

### （3）情報システムの確立

#### ① 会員コミュニケーションサイト活用の深化

会員コミュニケーションサイト MiiT+ は、引き続き研修会の案内告知（出欠確認）、研修会の資料掲載案内に活用するとともに、掲示板、ライブラリーが機能しています。より活用を図るために、使い方がよく分かる「コミュニケーションサイト活用マニュアル（仮称）」を作成し、周知を図っていきます。

#### ② 会員同士のコミュニケーションの場のさらなる活性化

複数運用しているコミュニケーションツールを一本化し、より活性化するよう情報発信や共有を進めて行きます。公式サイトには掲載しないような会員向けの情報を軽い感じで発信することで、当会の活動をより身近に感じいただき、会員間のやりとりもしやすい環境を構築します。

#### ③ ライブラリの充実

ライブラリのサイト構成をリニューアルすることによって、会員が欲しい情報により素早くアクセスできる環境を構築し、さらなるライブラリの有効活用を図ります。

## 4. 広報活動の活発化

### （1）内部広報

4か月に 1 回程度、メールやコミュニケーションツールを使って簡易的な会報誌の発行を検討します。内容は研修会案内のほか、会や会員の動向、土壤・農業関連のイベント案内等を想定します。

### （2）外部広報

当会の活動のうち、特別研修会など外部に広報すべき内容についてはプレスリリースを発行し、メディアへの露出増加を図っていきます。  
広報の担当者を置き、取材対応ができる体制を作っていきます。

Youtube 等の動画と SNS を活用した外部広報について、検討していきます。

## 5. 研修・研鑽事業

### (1) 研修体系

以下の研修を合わせて原則毎月開催することを目指とします。

#### ① 現地研修会

会員の圃場等を活用させていただき、(一財)日本土壤協会などから 講師を派遣いただき、土壌分析とその処方箋作成などに関する研修会を実施します。

#### ② 特別研修会

土づくりに関する学者等の著名人を招き、土づくりに関する様々な視点からの講演をいただきます。受講者は会員以外からも募り、原則参加費を徴収します。会員は無料とすることで会員以外との差別化を図り、本会への加入を促します。

開催は年2回以上を目指し、基本的にZoomで実施します。

#### ③ Zoom研修会

日ごろの土づくりに関する活動について、会員または会員外から報告を行って頂きます。

#### ④ 土壤関係書籍読み合わせ会

選定した土壤関係書籍について、会員が分担して解説を行った後、参加者全員で質疑応答する形式の 土壤関係書籍読み合わせ会を実施します。

#### ⑤ その他

昨年度に引き続き、土づくり関係の新たな情報について、研究機関、行政、メーカー商社等からの講演の検討や、土づくりをいろいろな視点から見るために、農業DXの動向や植物生態、動物との関連、地球温暖化防止、植物工場、水耕栽培等の講習会の開催についても検討します。

### (2) 研修会運営の効率化

運営方法を標準化することで、事務処理の効率化を図ります。

### (3) 研修内容をライブラリにて提供

研修参加を逃した会員に対して、研修内容をライブラリにて提供します。ラ

イブライリ閲覧に対する CPD ポイントの提供は、行いません。

## 6. 会員交流事業

リアルの会員交流会の開催について検討します。

本会の SNS として Discord があり、その利用を促進していきます。

## 7. 会員活躍推進事業

### (1) 会員活動の支援

会は、会員同士の活動を支援します。

研究部会活動やサークル活動の仕組みがありますが、現在活動の実績がありません。このため、これらの仕組みを有効に活用するために、会員への周知を図るとともに、会としての支援内容を検討していきます。

### (2) 会員活躍の場の開拓

会員数の増加と経験の向上により、当会ができることが増えました。「首都圏土壤医の会の支援メニュー」を作り、サイト等で告知することにより、自治体、企業、団体等からの依頼を受けやすい体制を構築し、もって会員活躍の場の開拓・創出につなげていきます。引き続き、都市農地活用センターの専門家派遣による講師派遣などを強化していきます。

## 8. 検定試験関連事業

### (1) 検定試験普及活動

検定試験のポスター やパンフレット の配布協力を会員に呼びかけます。

また、本会が行う検定試験講習会を積極的に外部へ広報し、検定試験の普及と講習会の参加者を増やしていきます。

### (2) オンライン検定試験講習会の企画・開催

従来の運営方法はスケジュールの調整が厳しく、同様の講習会開催が危ぶま

れます。今年度からは会員から講師の募集を行い、講師の確保が厳しい場合には動画再生による講習にするなど、方法の変更も検討します。

### （3）検定試験会場設置

#### ① 検定試験会場設置

新たな試験会場の設置の必要性を検討をします。

#### ② 試験監督員の確保

試験監督員候補者を増やすことを検討します。

## 9. 賛助会員について

今後の組織の在り方を含めて、賛助会員の必要性について検討します。

## 10. プロジェクト（チーム制）

理事相談役ではない会員にも参加しやすい体制として、参加自由なチームを作り、検討したい事項を話し合っていきます。

チームリーダーがとりまとめたものを理事会で報告していただき、事業の実施は理事会、重要な事項は総会で決定するという体制を構築します。